

火災による死者発生 の出火原因と死因

過去5年間の火災による死者が発生した火災の出火原因を見ると、「たばこ」が38人(31%)と多くの割合を占めている(図4)。たばこが起因した火災では、着火物の多くは寝具やごみ類であり、出火までに無炎燃焼により多量の煙と一酸化炭素を発生させる。一酸化炭素は、人体に非常に有毒なガスであり、火災に気付いた時にはその煙が原因で一酸化炭素中毒になり動けなくなるため、逃げ遅れてしまうこ

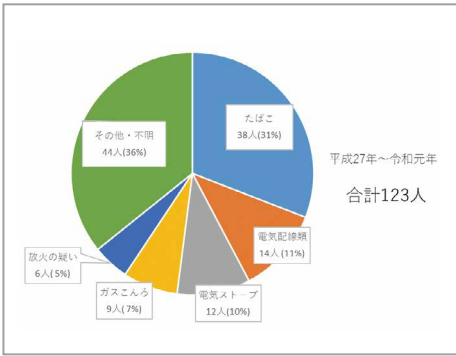


図4 死者が発生した火災の出火原因(放火自殺者を除く)

とが多いと考えられる。実際、過去5年間の火災による死者の死因を見ると、「一酸化炭素中毒・窒息」によるものが55%を占めている(図5)。

火災から身を守るためには

火災から身を守るためには、火災を発生させないことが一番であるが、「被害を軽減させる対策」を考えることも必要である。その一つとして、やはり早期に煙や熱を感じし火災の発生を知らせる住宅用火災警報器の設置が必須であろう。しかしなが

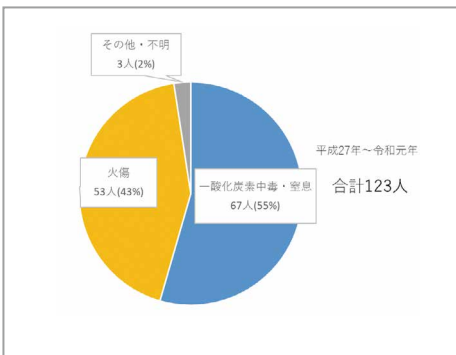
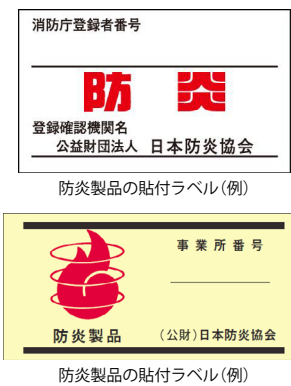


図5 火災による死者の死因(放火自殺者を除く)

らまだ大阪市内においても、住宅用火災警報器が未設置の家庭があるため、引き続き、住宅用火災警報器の設置及び効果を広報していく必要がある。併せて、設置の義務化から10年を経過しており、今後、電池切れのため作動しないケースが出る可能性も考えられるため、維持管理(定期的な点検・機器本体の交換)についても積極的に広報していく必要がある。

また、「防災物品」や「防災製品」の使用も効果的である。これらにはカーテン、じゅうたん、寝具類、衣服類などの多くの種類があり、「燃えにくい」性能を有し、繊維等が小さな火源に接しても容易に燃え上がらず、もし着火しても際限なく燃え広が



ることはない。死者の発生経過のうち、「延焼拡大が早く避難行動が不十分」の発生経過が見られることから、「燃えにくい」性能を有した「防災物品」や「防災製品」を使用することが重要である。そうすることで延焼拡大を抑制し初期における火災対応を行う貴重な時間を確保することができると、住宅用火災警報器と併せて積極的に広報していく必要がある。

おわりに

今回は、「火災による死者」に焦点を当て分析し、火災による死者の発生現状と予防対策について述べた。

近年、火災件数は減少しているが、火災による死者数はほぼ横ばいである。この現状を少しでも改善できるよう我々消防職員が日々自己研鑽に励み、習得した知識を様々な機会を活用し、「火災を予防する環境づくり」について懇切丁寧に市民に伝えていきたい。